

# 勢い止まらず！ 山場乗り越え全国4強へ

## 駒澤大学2-1筑波大学

優勝を決めたかのように喜びを爆発させる選手ら（撮影：佐藤 亮）

7月12日 18:00 J-GREEN 堺メインフィールド

駒大 2 (0-1) 1 筑波大 (2-0)

得点者(アシスト)

[駒]72分 碓井 [筑]26分 赤崎(上村)  
[駒]74分 湯澤(小牧)

### KOMAZAWA

GK①大石健太(3)  
DF⑬大木暁(2)  
DF④三澤祥馬(4)  
DF②友廣壮希(3)  
DF③田中雄一(3)  
MF⑥若山瞭太(3)  
DF⑮水野裕之(3)  
MF⑰平野篤志(1)  
(HT MF⑪小牧成亘(2))  
MF⑳溝口祐真(2)  
(HT MF⑩湯澤洋介(4))  
MF⑧碓井鉄平(3)  
(89分 MF⑤宮城雅史(4))  
FW⑳菊池将太(1)  
(32分 FW⑨山本大貴(3))

### S U B

GK⑦積田景介(1)  
DF⑳荒井裕介(4)  
DF⑬平尾優頼(2)  
DF⑦嶋谷昇大(1)  
MF⑦奥村 情(4)  
MF⑱真野直紀(4)  
MF⑭板倉直紀(2)  
MF⑲中村 駿(1)

### MANAGER

秋田浩一

### TSUKUBA

GK⑳岩脇力哉(1)  
DF⑳早川史哉(1)  
DF⑭車屋紳太郎(2)  
DF⑤山越享太郎(4)  
MF③谷口彰悟(3)  
(90分 MF②松田 貴(4))  
MF⑩中野嘉大(2)  
(30分 MF⑮曾山慶太(3))  
MF⑩玉城俊吾(3)  
MF⑧上村 岬(3)  
FW⑨赤崎秀平(3)  
FW⑪瀬沼優司(4)  
FW⑦曾我敬紀(4)  
(70分 FW⑥不老祐介(4))

### S U B

GK①山川 晃(4)  
DF⑬神舎 宏(3)  
DF④今井 純(4)  
DF⑫田代 諒(2)  
DF⑰岸 光(2)  
DF⑱片岡 爽(2)  
FW⑳前原拓哉(3)  
FW⑳若杉拓哉(1)

### MANAGER

野地照樹

[シュート]4:18 [GK]16:4 [CK]1:7 [直接FK]1:22  
[間接FK]1:3 [主審]阿部洋夫 [観衆]約105人

警告(C)ノ退場(S)

[駒]46分 山本大貴(C)  
[駒]60分 水野裕之(C)  
[駒]81分 田中雄一(C)  
[駒]82分 山本大貴(C)(S)  
※データの左側が駒大

### 逆転勝利で鬼門を突破

開幕から激戦が続き、過酷な道を歩んできた駒大。PK戦にまでもつれ込んだ2回戦・対高知大での疲れを残したまま、優勝候補の一角である筑波大を相手に迎えた。

立ち上がりから主導権を握ったのはやはり筑波大だった。正確かつスピードのあるパス回しで駒大を翻ろう。これに苦しめられボールを奪えないでいると、苦手の時間にこの日も失点を喫する。26分、大石が前に出たところにスペースを上手く使われ先制点を許すことに。

その後も終始ボールを支配されると、ワンサイドゲームが展開され苦しい時間が続いた。これを打開するため、前半のうちに「勝ちたかった」(秋田監督)と、怪我が心配されていた山本を投入。それでも流れは変わらず、前半終了時のシュート数は筑波大の11に対し駒大は0に終わる。数字からも圧倒されたゲーム内容がわかる結果となった。

後半に入るとピッチには湯澤と小牧の姿が。疲労を考慮してのベンチスタートだったが、ハーフタイムが終わるとこの2人が積極的に攻撃を仕掛ける。まずは47分、小牧が左サイドを駆け上がりそのままシュート。これは相手GKに阻まれたが、早速チーム初シュートを放つ。その後ポ

スト直撃などのピンチを迎える場面もあったが、全国大会デビューとなった友廣と主将三澤がしっかりと中央を堅め追加点は許さない。すると59分に今度は湯澤がドリブルで相手陣内に攻め倦んだ。DF陣が粘りをみせるなか、同点に追いついたのは72分のことだった。相手PA内で山本が体を張ったプレーから倒されてPKを獲得。これを「落ちついて蹴れた」と、碓井が冷静に沈め振り出しに戻した。

普段のボランチとは違いセカンドトップの位置にポジションを据えた碓井。確実にネットを揺らすと、今度は影の動きで役割を果たす。それは直後の74分、湯澤がドリブルで左サイドを突破していくと、碓井が外を回り相手を引きつける。これでスペースを得た湯澤が中へ切り込みそのままシュート。ボールはゴール右隅に突き刺さり、わずか2分間で逆転に成功した。

82分に山本が二枚目のイエローを受け退場となったが、全員が引いて守り堅守を続ける。ロスタイムは5分、これを守れば大金星となるだけに凄まじい集中力でゴールに鍵をかけた。最後は大きく蹴り出された球に湯澤と小牧が抜け出し、相手陣内で時間を使うと、試合終了を告げる笛を鳴り響いた。

倒れ込んだ湯澤に選手らが駆け寄り、まるで優勝したかのような喜びをみせる。これで鬼門を突破し、4強入りを果たした。(佐藤 亮)